



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

岡山県 岡山市立山南学園



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和7年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2025年4月～2026年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



写真・映像等を使用した自己紹介
学習内容の確認



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。

※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：竹中七海先生(体操/新体操)【出場オリンピック/東京2020大会】

■期 日：2025年7月11日(金)

■クラス：8年A組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



東京2020大会では体操/新体操競技に出場したと自己紹介。競技用リボンを使用して技を披露。今回の授業を通じて、オリンピックや新体操の理解を深めるきっかけとしてほしい。オリンピックバリューは、誰もが共感できる考え方であり、今日の授業では、楽しみながらその価値を体験してもらいたい。その後、2チームに分かれ手をつないで大きな円をつくり、全員がフラフープをくぐり終えるまでの速さを競うゲームを実施。1回目実施後、チームでより速く回す方法を話し合い、工夫して再挑戦。

○主運動等



主運動は、3種目のリレーを連続で行う「トライリレー」で4チームでタイムを競う(全2回)。1種目は、チーム全員が一列に並び、ボールを頭上と股下で交互に渡しながり返し、スタート地点へ戻る。2種目は、バスケットボールを使い、往路は利き手でドリブル、復路は反対の手でドリブルして戻る。3種目は、フラフープを腰で回しながら往復し、最後の走者がゴールした時点で全員がその場に座る。1回目終了後、より速くなるための方法を話し合う時間を設け、改善を図り2回目を実施。走っている人以外は、オリンピックバリューの1つであるフレンドシップ：「協力」「友情」を意識して、仲間を応援することにも力を注ぐと伝える。



運動の時間を振り返り、トライリレーやってみて、オリンピックバリューは出場する人や目指す人だけのものではなく、皆にも当てはまるものがあると実感できたのではないかと話す。ベストを尽くして頑張る、仲間と協力する、互いをリスペクトするという意識の変化が、ゲームに取り組む皆の姿勢にもよく表れていたと称える。運動の時間で感じたことを思い出しながら教室に戻り、それぞれが気づきを持ってほしい。座学ではオリンピックバリューについて一緒に学ぶ時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：竹中七海先生(体操/新体操)【出場オリンピック/東京2020大会】

■ **期 日**：2025年7月11日(金)

■ **ク ラ ス**：8年A組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



5歳で競技を始め、高校1年生で日本代表に入り、オリンピックでのメダル獲得を目指した。東京2020大会出場後、パリ2024大会出場権をかけた大会の初日にチームの敗退が判明したが、翌日以降も試合は続き、大きな悔しさの中でも仲間と支え合い、応援してくれた人への敬意を持ち、最後まで全力で演技を披露した。その経験からオリンピックの価値を学ぶことができた。オリンピックはメダルや勝利に限らず、ゴールを目指す過程で得る学びにこそ価値があり、誰もが日常の中で共感できるものだと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分が頑張りたいこと、挑戦したいことについて、オリンピックバリューにどのようにあてはまるかを考えてみよう。
 発表：エクセレンス：「ねばり強く」「あきらめずベストを尽くす」「サーブを1種類でも多く出したい」「テストの点数を上げる」等
 フレンドシップ：「励ましあう」「声出し」「思いやり」「チームワークが大切」「音楽で世界中をわかす」「友達100人つくる」等
 リスペクト：「挨拶」「同志を大切に」「親に感謝」等



今日の運動の時間で体験したように、オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」は、今後の皆の人生にも活かせる大切な考え方だ。日常生活でもこれらを意識して行動すれば、物事を改善したり、新しいことに挑戦したり、仲間に思いやりを持って接する姿勢が自然に身につくようになると話す。皆が発表してくれた夢や頑張っていることはどれも素敵で、今日の授業で学んだことを皆の夢に近づくヒントにしてくれると嬉しい。今後の皆の活躍に期待していると話し、授業終了。

■オリンピック：竹中七海先生(体操/新体操)【出場オリンピック/東京2020大会】

■期 日：2025年7月11日(金)

■クラス：8年B組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



東京2020大会に体操/新体操で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「友情」「助け合う」、リスペクト：「敬意/尊重」「思いやり」「感謝」と説明。これらの考え方は、スポーツに関わらず誰もが人生を生きる上で大事な考え方である。運動の時間はオリンピックバリューを意識して、楽しむことも忘れずに取り組みようと話す。新体操の要素を取り入れたストレッチを行った後、2チームに分かれて円になり、フラフープくぐりに挑戦。

○主運動等



主運動は、3種目のリレーを連続で行う「トライリレー」で4チームでタイムを競う(全2回)。1種目は、チーム全員が一列に並び、ボールを頭上と股下で交互に渡しながり返し、スタート地点へ戻る。2種目は、バスケットボールを使い、往路は利き手でドリブル、復路は反対の手でドリブルして戻る。3種目は、フラフープを腰で回しながら往復し、最後の走者がゴールした時点で全員がその場に座る。ルールを守ることは、オリンピックバリューのリスペクトに当てはまる。フェアプレーで勝負するため、1種目目のボール渡しの復路では、ボールを受け取る位置がスタートラインを超えたことを確認してから次の種目に進もうと伝える。



運動の時間では、チームで改善策を話し合ったことをそれぞれが実践して、ベストを尽くす姿勢が素晴らしかったと振り返る。応援の力やチームワークが成長を後押しし、互いに教え合うことで成果も上がっていたと話す。オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の人生にも活かせる考え方である。次の座学の時間では、自分の経験を共有するので、皆の日常での実践できることを考えてもらいたい。目標に向かってどう行動していくのかを一緒に考えたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：竹中七海先生(体操／新体操)【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2025年7月11日(金)

■ **ク ラ ス**：8年B組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。5歳から体操／新体操を始め、東京2020大会では8位入賞し、20年以上競技を続けてきたと話す。新体操は、道具を使い音楽に合わせて踊る競技で、個人種目と5人で演技する団体種目があると説明。オリンピックの目的について生徒に問いかけ、スポーツを通じて世界平和に貢献することだと回答。先生が目標としていたオリンピックのメダル獲得は叶わなかったが、その過程で得た学びや仲間が存在が自身の大きな成長につながり、今もその経験が自分の支えになっていると話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分が頑張りたいこと、挑戦したいことについて、オリンピックバリューにどのようにあてはまるか考えてみよう。

発表：エクセレンス：「あきらめない」「必死で研究する」「描き続ける」「一球一球大切に打つ」「より良いものにする」等

フレンドシップ：「支えあう」「高めあう」「個性を認める」「声掛け」「教え合い」「みんなで協力」「コミュニケーション」等

リスペクト：「スポーツマンシップ」「挨拶をする」「応援してくれた人に感謝」「敬意を持つ」「尊敬」等



運動の授業で、1回目より3回目の挑戦で大きく進化したように、努力の中で結果以上に大切なものが得られることがあると実感できたと思う。先生は目指していたパリ2024大会出場の夢は叶わなかったが、仲間5人で最後まで諦めずに演技をやり遂げた経験は一生の宝物であると話す。夢が叶うかどうかより、挑戦する勇気と過程の学びに本当の価値がある。皆も今日の授業で学んだオリンピックバリューを忘れず、自分が頑張りたいことに対して、失敗を恐れずに、一歩踏み出してほしいと伝え、授業終了。

■修了証贈呈

